

10 高齢・在宅ケア情報交換会

第1回

申請者氏名（代表者） 永田美和子	所属部門	人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア看護学領域		
企画名 第1回 高齢・在宅ケア情報交換会				
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 日本の高齢化率が24%と本格的な超高齢社会の到来を目前としています。名桜大学のあるやんばる地域の高齢化率は20%を超えてはいませんが、名護市以外の町村においては、30%近い高齢化率です。豊かな老後とは何か？高齢者ケアの質の向上とは何か？沖縄県（やんばる地域）の高齢者・在宅ケアを誰がどのようにに関わり、担っていくのか？沖縄県（やんばる地域）に特化したケアはあるのか？等々、ありとあらゆる角度から、情報交換を行い、何らかの示唆を得たいと考える。 高齢者・在宅ケアに興味・関心のある方はどなたでも参加可能です。楽しくゆんたくしながら、数々の発見をしたい。				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
永田美和子	看護学科 准教授	高齢・在宅ケア	司会進行	
稲垣絹代	看護学科 教授	高齢・在宅ケア	運営	
佐和田重信	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	運営	
八木澤良子	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	受付 運営	
企画実施報告（参加人数等を明記）				
1）日時：2013.5.25(土)14：00～16：00 2）参加人数：7名 3）内容：①今後の会の進め方について ②現在、実践の場で困っている事 ③その他 第1回の参加者は名護市の地域包括支援センターの保健師、居宅介護支援事業所のケアマネジャー、名護市と本部町の高齢者施設（療養病棟、回復期病棟）の管理者及びスタッフの方々と教員であった。2時間に渡り、それぞれの立場から「ケアの現状と課題」について熱く刺激的にディスカッションした。「入院している方々の人生の一部の顔が患者である」と参加者の方が語られた様に、みなさんの共通している思いは、『住み慣れた地域で高齢者が生活できるように支援したい』という思いであった。その中で、独居高齢者が施設で治療を終えた後に住み慣れた地域に戻ることが困難な現状があること、施設と地域をつなぐ地域連携のあり方、地域包括支援センターの役割を浸透するにはどうしたらいいのか等々、現状と課題が少し見えてきた。まさしく、多様な職場で多様な職種が参画したからこそ、見えてきた課題であり情報交換会の意義を確信することができた。				

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

7名の参加であるのでアンケートは特に実施していないが、本情報交換会の主旨を十分に了解してもらえた。実習関係者の参加が主であったが、今回参加して下さった保健師の方をはじめ、やんばる地域の抱える高齢・在宅における課題を今後も継続して検討し、質の向上に努めたい。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

やんばる地域の高齢・在宅ケアの質の向上のために、今、現場で抱えている課題をディスカッションし、参加している方々それぞれが何らかの示唆をえて現場で活かせるようなミニテーマを設定する必要がある。次回のテーマは「地域連携のあり方」である。



関係者各位



**第1回
高齢・在宅ケア看護情報交換会のお知らせ**

<情報交換会の趣旨>
日本の高齢化率が 24%と本格的な超高齢社会の到来を目前としています。名桜大学のあるやんばる地域の高齢化率は 20%を超えてはいませんが、名護市以外の町村においては、30%近い高齢化率です。豊かな老後とは何か？高齢者ケアの質の向上とは何か？沖縄県（やんばる地域）の高齢者・在宅ケアを誰がどのようにに関わり、担っていくのか？沖縄県（やんばる地域）に特化したケアはあるのか？等々、ありとあらゆる角度から、情報交換を行い、何らかの示唆を得たいと考えています。
高齢者・在宅ケアに興味・関心のある方はどなたでも参加可能です。楽しくゆんたくしながら、数々の発見をしましょう！
名桜大学人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア領域

記

- ◆ 日時：平成 25 年 5 月 25 日（土）14：00～16：00
- ◆ 場所：名桜大学 北部地域看護系医療人材育成支援施設
（人間健康学部看護学科棟）
講義室 3

- ◆ 参加費：無料

- ◆ 内容：①今後の会の進め方について
②現在、実践の場で困っていること
③その他

- ◆ なお、5月23日（木）までに FAX またはメールで、参加申し込みをお願い致します。ご不明な点がございましたら、下記までご連絡をお願い致します。

名桜大学人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア 永田美和子

電話：0980-51-1286

FAX :0980-51-1307

mail : miwako@meio-u.ac.jp



第2回

申請者氏名（代表者） 永田美和子	所属部門	人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア看護学領域		
企画名 第2回 高齢・在宅ケア情報交換会 ミニテーマ「地域連携のあり方」				
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 病院（施設）から自宅に帰りたいがどこに相談すればよいのか、自宅で生活するための社会資源について知りたい等、病院（施設）と在宅をつなぐ役割を担っている地域連携支援室のありかたについて情報交換したい。				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
永田美和子 佐和田重信 八木澤良子	看護学科 准教授 看護学科 助教 看護学科 助教	高齢・在宅ケア 高齢・在宅ケア 高齢・在宅ケア	話題提供者 司会進行 運営 受付	
企画実施報告（参加人数等を明記）				
1) 日時：2013.7.27(土)14：00～16：00 2) 参加人数：8名 3) 内容：①地域連携支援のありかたについて ②現在、実践の場で困っていること ③その他 独居の方が入院生活に安心してなじんでしまうことで、ご家族の方が安心して在宅へ繋ぐタイミングが難しいことや、老々介護で介護者の負担が大きい、高齢者自身が在宅での生活への不安や経済的な理由で退院を諦めてしまう現状など、高齢者自身の意思決定の困難さ、介護負担を危惧する家族とのGOALのズレなど浮き彫りとなった。家族が安心して受け入れられるようになるには、家族が在宅での生活についてイメージがつかないのではないかという意見もあり、他職種連携のもと在宅生活のメリットおよびデメリットを説明し「家に帰っても大丈夫！！」と具体的なシミュレーションを導入する必要があること、介護支援専門員を退院前に紹介する等々、熱く意見交換できた。 また、「地域力」をキーワードとして、既に進行中である地域連携のもとでの見守り支援隊や公民館を利用した地域健康教室の紹介があり、モデルとなるような保健・福祉・医療の地域連携の在り方について多くの示唆を得ることができた。特に、地域連携に重要なのは「顔の見える関係づくり」であり、まさしくこの情報交換の場が「顔の見える関係づくり」であることを確認できたとても有意義な情報交換会であった。				

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

前回の参加者に加えて今回は介護老健施設の地域連携課の方の参加もあり、他職種の方が多く参加するようになった。ケアの質の向上に向けて高齢者を取り巻く環境は、他職種連携なしでは成り立たない。今後もより多くの方が参加できるように広報したい。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

情報交換から見えてきた課題として高齢者の看取りのあり方に不安やジレンマを持っている方が多いことが明らかになった。次回は「高齢者の看取りをめぐって」というテーマで情報交換する。



写真：情報交換会の様子

関係者各位



記

- ◆ 日時：平成 25 年 7 月 27 日（土）14：00～16：00
- ◆ 場所：名城大学 北部地域看護系医療人材育成支援施設
(人間健康学部看護学科棟)
講義室 3

- ◆ 参加費：無料
- ◆ 内容：①地域連携支援のありかたについて
②現在、実践の場で困っていること
③その他
- ◆ なお、7月26日（金）までに FAX またはメールで、参加申し込みをお願い致します。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡をお願い致します。

名城大学人間健康学部看護学科

高齢・在宅ケア 永田美和子

電話：0980-51-1286

FAX :0980-51-1307

mail：miwako@meio-u.ac.jp

第3回

申請者氏名（代表者） 永田美和子		所属部門	人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア看護学領域	
企画名 第3回高齢・在宅ケア情報交換会 ミニテーマ「高齢者の看取りをめぐる」				
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 自宅で最期を迎えたい・・・と多くの高齢者が願う中、8割近いかたが施設で亡くなり、在宅で最期を迎える方は12.4%である。高齢者の希望を叶えるには何が課題でどのような支援が必要なのか、看取りを取り巻く現状について情報交換し看取りケアについて考えたい。				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
永田美和子	看護学科 准教授	高齢・在宅ケア	運営	看取りの話題提供 タイスタディツアーの 話題提供
稲垣絹代	看護学科 教授	高齢・在宅ケア	運営	
佐和田重信	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	話題提供	
八木澤良子	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	司会・進行 話題提供	
企画実施報告（参加人数等を明記）				
1) 日時：2013.9.28(土)14:00～16:00 2) 参加人数：7名 3) 内容：①高齢者の看取りをめぐる ②海外スタディツアーに参加して（タイ：八木澤良子助教） 最初に佐和田助教から高齢者の看取りに関する情報提供を行った後、沖縄独自の看取りの伝統文化、施設における看取り教育の現状、在宅での看取りが困難であった独居高齢者の事例、看取りに関する事前確認の是非、延命治療と家族へのインフォームドコンセントなど多彩な内容で意見交換を行った。 少しずつ高齢者の延命治療や看取りに関して認識が変化してきていることを踏まえ、死をタブー視するのみでなく専門職は一般市民と看取りについて徐々に話し合う事が重要であることや、沖縄の看取りの特徴について考えさせられた。特に、家族が施設内で線香を使用することへの受け入れがたさなどのジレンマがありながらも、本人や家族の意向に沿って地域の伝統文化を大切にした看取りケアが重要であること、そのために看護師は地域の伝統的な看取りの文化や方法を理解し、実践する必要がある等の意見があった。文化を踏まえた「生」と「死」の捉え方について深く考えさせられ、沖縄の看取り文化の奥深さを垣間見ることができた。また、医療施設、介護施設、在宅サービスにおける高齢者の看取りについてそれぞれの課題があり、前回テーマとなった「連携」の重要性も再確認できた。 最後に八木澤助教から「タイの保健医療の現状」をテーマに海外スタディツアーに参加した報告が行われ、有意義な情報交換会となった。				
企画の実施評価（ケアの質の向上、または大学および地域の貢献）				
文化と看取りの特徴について有意義な情報交換となった。うるま市の方からの新たに参加者が増え、やんばる地域だけではなく、沖縄県全域の高齢・在宅ケアの質の向上につながるようにPRする。				

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

次回のテーマは「卒業研究報告と情報交換会」とし、あらゆる視点から卒業研究のテーマに取り組み、その成果を臨床の方に報告し、さらに質の向上にむけた情報交換の場とする。



写真：情報交換会の様子

関係者各位

平成 25 年 9 月吉日

第3回 高齢・在宅ケア情報交換会のお知らせ

<ミニテーマ>

『高齢者の看取りをめぐって』

自宅で最期を迎えたい・・・と多くの高齢者が願う中、8割近い人が施設で亡くなり、在宅で最期を迎える方は12.4%です。高齢者の希望を叶えるには何が課題でどのような支援が必要なのか、看取りを取り巻く現状について情報交換し看取りケアについて考えたいと思います。

記

- ◆ 日時：平成 25 年 9 月 28 日（土）14：00～16：00
- ◆ 場所：名城大学 北部地域看護系医療人材育成支援施設
（人間健康学部看護学科棟）
講義室 1

- ◆ 参加費：無料
- ◆ 内容：①高齢者の看取りをめぐって
②海外スタディツアーに参加して（タイ：看護学科教員）
③その他

- ◆ なお、9月27日（金）までにFAXまたはメールで、参加申し込みをお願い致します。
申し込み先：看護実践教育研究センター 金城千恵美 FAX:0980-51-1136
ご不明な点がございましたら、下記までご連絡をお願い致します。

名城大学人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア 永田美和子

電話：0980-51-1286

FAX：0980-51-1307

mail：miwako@melo-u.ac.jp

第4回

申請者氏名（代表者） 永田美和子	所属部門	人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア看護学領域		
企画名 第4回高齢・在宅ケア情報交換会 ミニテーマ「平成25年度卒業研究成果報告&情報交換」				
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 約1年間に渡り、逃げ出したくなるような衝動にかられながらも、研究に協力して下さった対象者の顔を思い浮かべ、共に支え合い、自分と向き合い、納得のいく論文が仕上がりました。そして11月9日に学内研究発表会が終了しました。今回の研究会では、その研究成果を皆様にご報告し情報交換したい。				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
永田美和子	看護学科 准教授	高齢・在宅ケア	司会・進行	
稲垣絹代	看護学科 教授	高齢・在宅ケア	運営	
佐和田重信	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	運営	
八木澤良子	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	受付・運営	
企画実施報告（参加人数等を明記）				
1) 日時：2013.11.30(土)14:00～16:00 2) 参加人数：11名 3) 内容：1. 卒業研究成果報告と情報交換 ① 金城銀河：認知症高齢者を介護する家族の工夫と介護困難感 ーBPSD症状の軽減に着目してー ② 喜友名ゆかり：入浴介助におけるプライバシー保護の現状と課題 ー通所介護、通所リハビリテーションスタッフのアンケート調査よりー ③ 新里真希乃：在宅ターミナル経験後の訪問看護師が感じる満足感 ④ 知念真衣：妻を介護する後期高齢者の夫の思い ⑤ 天願由祈子：沖縄県の在宅ターミナルケア継続の要因と経済力の関連について ⑥ 興那覇力也：意思表示ができない胃瘻増設患者とその家族に対する看護師の関わりとその思い 卒業研究でお世話になった実習施設の方々の参加もあり、成果を還元でき、情報交換できた。 参加して下さった訪問看護ステーションの看護師からは、死と向き合いながらも本人・家族の不安感、苦痛の緩和を考慮しながらかかわっていることをお聞きし、今回の報告会での発表内容を更に根拠づけたものになった。また、入浴介助におけるプライバシー保護の現状と課題では、同性同士で入浴介助をする必要性や羞恥心の配慮をするように心がけているがマンパワー不足の課題等がディスカッションされた。 また、フロアからは学生の卒業研究の成果にたいしてお褒めと励ましの声をいただき、学生が卒業研究で明らかにした視点での報告会は意義のあるものであった。				

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

看護学科主催の卒業研究発表会に参加できなかった臨床の方々に参加していただき、質疑応答も活発に行われ意義のある報告会であった。また、是非に施設で職員の方にも紹介してほしいというアプローチもあり、今後企画予定である。学生が研究し明確になった課題の現場へのフィードバックは、高齢者・在宅ケアの質の向上の一助となり得る。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

今回のテーマは「身体拘束について」である。身体拘束 0 作戦から数年が過ぎているが、いまだに身体拘束がなされている現場の現状と解決策についてディスカッションする。



写真：情報交換会の様子

関係者各位
平成 25 年 11 月吉日

第4回 高齢・在宅ケア情報交換会のお知らせ

＜ミニテーマ＞
『平成 25 年度卒業研究成果報告&情報交換』

約 1 年間に渡り、逃げ出したいような衝動にかられながらも、研究に協力して下さった対象者の顔を思い浮かべ、共に支え合い、自分と向き合い、納得のいく論文が仕上がりました。そして 11 月 9 日に学内研究発表会が終了しました。今回の研究会では、その研究成果を皆様にご報告し情報交換したいと思います。

記

- ◆ 日時：平成 25 年 11 月 30 日（土）14:00～16:00
- ◆ 場所：名城大学 北部地域看護系医療人材育成支援施設（人間健康学部看護学科棟）2 階 講義室 3
- ◆ 参加費：無料
- ◆ 内容：1. 卒業研究成果報告と情報交換
 - ① 金城銀河：認知症高齢者を介護する家族の工夫と介護困難感—BPSD 症状の軽減に着目して—
 - ② 喜友名ゆかり：入浴介助におけるプライバシー保護の現状と課題—通所介護、通所リハビリテーションスタッフのアンケート調査より—
 - ③ 新里真希乃：在宅ターミナル経験後の訪問看護師が感じる満足感
 - ④ 知念真衣：妻を介護する後期高齢者の夫の思い
 - ⑤ 天願由祈子：沖縄県の在宅ターミナルケア継続の要因と経済力の関連について
 - ⑥ 奥那権力也：意思表示ができない胃瘻増設患者とその家族に対する看護師の関わりとその思い
- 2. その他
 - ◆ なお、11 月 29 日（金）までに FAX またはメールで、参加申し込みをお願い致します。申し込み先：看護実践教育研究センター 金城千恵美 FAX: 0980-51-1136
 - ◆ ご不明な点がございましたら、下記までご連絡をお願い致します。
 - ◆ 名城大学人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア 永田美和子
 - ◆ 電話：0980-51-1286 FAX :0980-51-1307
 - ◆ mail: miwako@meio-u.ac.jp

関係者各位
平成 26 年 2 月吉日

第5回 高齢・在宅ケア情報交換会のお知らせ

＜ミニテーマ＞
『高齢者の人権と倫理的課題—身体拘束をめぐる一—』

平成 13 年に「身体拘束 0 作戦」を厚生労働省が打ちだしてから 10 年が経過しました。いまだに、やむを得ない理由ではないのに身体拘束を受けている高齢者が介護保険施設およびグループホームで入所者(入居者)の約 3.1% (約 33,000 人) というデータもあります。施設ごとの取り組みなどで拘束されている入所者数のばらつきはあると思いますが、身体拘束をせずに事故を防ぐ方法等、非常に身近にある身体拘束の問題についてディスカッションしたいと思います。

記

- ◆ 日時：平成 26 年 3 月 1 日（土）14:00～16:00
- ◆ 場所：名城大学 北部地域看護系医療人材育成支援施設（人間健康学部看護学科棟）講義室 1
- ◆ 参加費：無料
- ◆ 内容：① 高齢者の身体拘束をめぐる
 - ② 在宅医療看護研修「北イタリアの小さなホスピス」報告
 - ③ その他
- ◆ なお、2 月 28 日（金）までに FAX またはメールで、参加申し込みをお願い致します。申し込み先：看護実践教育研究センター 金城千恵美 FAX: 0980-51-1136
- ◆ ご不明な点がございましたら、下記までご連絡をお願い致します。
- ◆ 名城大学人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア 永田美和子
- ◆ 電話：0980-51-1286 FAX :0980-51-1307

第5回

申請者氏名（代表者） 永田美和子	所属部門	人間健康学部看護学科 高齢・在宅ケア看護学領域		
企画名 第5回高齢・在宅ケア情報交換会 ミニテーマ「高齢者の身体拘束をめぐって」				
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 平成13年に「身体拘束0作戦」を厚生労働省がうちだしてから10年が経過しました。いまだに、やむを得ない理由ではないのに身体拘束を受けている高齢者が介護保険三施設およびグループホームで入所者の約3.1%（約33,000人）というデータもあります。施設ごとの取り組みなどで拘束されている入所者数のばらつきはあると思いますが、身体拘束をせずに事故を防ぐ方法等、非常に身近にある身体拘束の問題についてディスカッションしたい。				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
永田美和子	看護学科 准教授	高齢・在宅ケア	話題提供	イタリアの保健医療福祉の現状 高齢者の身体拘束について
稲垣絹代	看護学科 教授	高齢・在宅ケア	運営	
佐和田重信	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	話題提供	
八木澤良子	看護学科 助教	高齢・在宅ケア	司会・進行	
企画実施報告(参加人数等を明記)				
1) 日時：2013.3.1(土)14:00～16:00 2) 参加人数：3名 3) 内容：①高齢者の身体拘束について（佐和田重信） ②イタリアの保健医療福祉の現状（永田美和子） 今回の参加者は看護協会の研修と日時が重なりディサービス代表者と学内教員と学生と少数であった。身体拘束の現状について佐和田助教より話題提供をした後に、身体拘束の現状についてディスカッションをした。ディスカッションの中心は認知症の方の周辺症状に対して、マンパワー不足で対応が困難であり、非薬物療法の限界と一次的の拘束へのスタッフのジレンマであった。 周辺症状がなぜ出現するのか？効果的な薬物の使用の検討、マンパワー確保などディスカッションしたが結論には至らなかった。 イタリアの研修報告では永田准教授よりイタリアの高齢者医療、在宅ケアの現状、小さな町のトレヴィゾのボランティアを中心としたホスピスケアについて報告があった。				
企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)				
参加人数が少数であったため、早めの広報の必要がある。また、他施設の研修の日程の確認などをする必要がある。身体拘束は療養病棟で多くみられるとの報告もあるので、本テーマは今後も継続して情報交換する必要がある。				
今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)				
平成26年度は可能な限り参加施設の輪番制により持ち回り開催としたい。次回5月の開催時に提案し平成26年度の計画立案をする。				